

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	名古屋ステーション開発株式会社
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	名古屋市中村区椿町15番27号
工場等の名称	名古屋駅
工場等の所在地	名古屋市中村区名駅一丁目1番4号
業種	不動産業、物品賃貸業
業務部門における 建築物の主たる用途	飲食店
建築物の所有形態	賃貸ビル等(賃貸している建築物)
事業の概要	当社が、JR東海名古屋駅構内のスペースを事業者に賃貸提供し、賃借人が物販及び飲食業を経営。
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

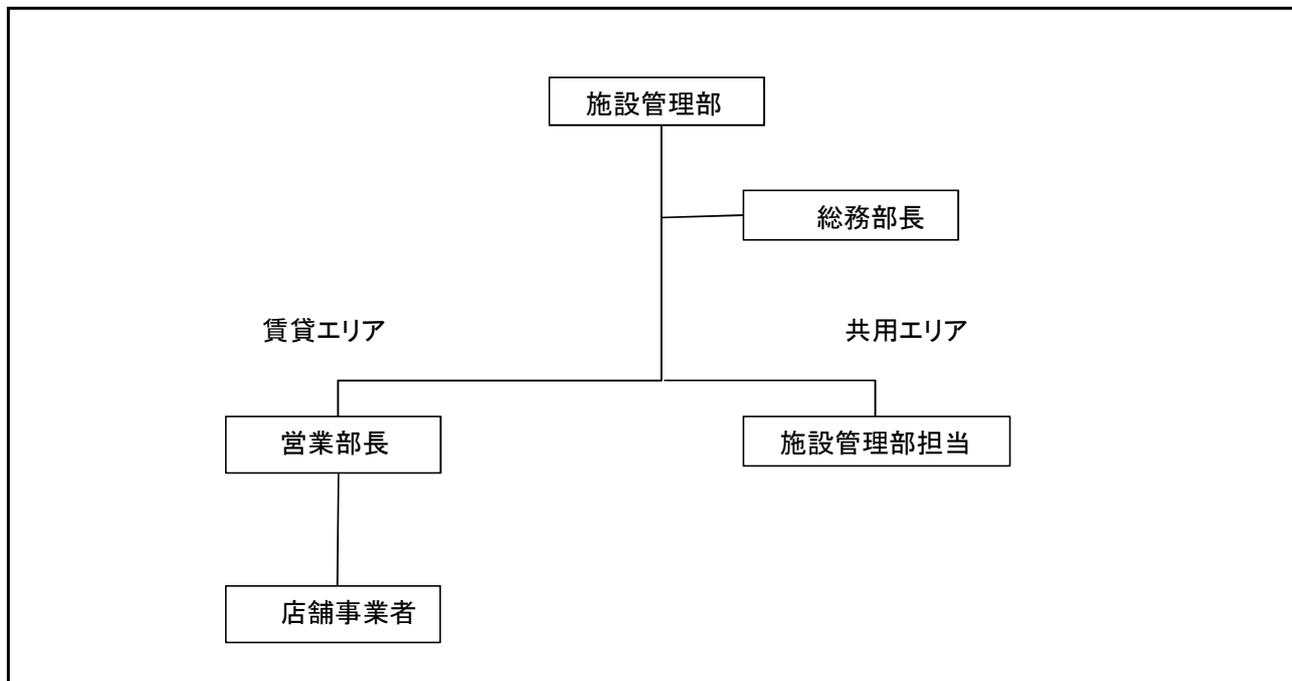
公表期間	令和5年7月7日 ～ 令和5年10月5日		
公表方法	○	掲 示 閲 覧	(場所) 名古屋ステーション開発株式会社
		ホ ム ペ ー ジ	(HPアドレス)
		冊 子	(冊子名・ 入手方法)
		そ の 他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	052-559-2160		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当社は、地球環境保全の重要性を認識し、J R 東海名古屋駅構内のスペースを賃貸提供するそれぞれのテナント事業者に対して、店長会やテナントリニューアル打合せの会議で、省エネルギー化の取組みについて啓蒙を実施し、より一層の理解と協力を求めていくこととする。また、自社が管轄する共用エリアについても、省エネルギー機器を積極的に使用することを進めていく。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		3,215	t-CO ₂
① 温室効果ガス 換算 排出量 (二酸化炭素を 除く)	②非エネルギー起源二酸化炭素 (③を除く。)		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素 (発電所等配分前)		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量 (①~⑩合計)		3,215

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
温室効果ガス 総排出量	3,008	t-CO ₂	3,211	t-CO ₂	3,215	t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率 (対 基準年度)			▲ 6.7	%	▲ 6.9	%		%		%
温室効果ガス みなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率 (対 基準年度)						%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
原単位あたりの 排出量										
削減率 (対 基準年度)				%		%		%		%
原単位あたりの みなし排出量										
削減率 (対 基準年度)						%		%		%

(2) 進捗状況に対する自己評価 (目標の達成/非達成の理由)

・コロナウイルス感染拡大の影響を排するため、その影響を受けない令和元年度に対する削減目標を掲げていたが、照明のLED化の効果等により計画最終年度の令和6年度目標にほぼ近い結果を達成することができた。ただし前年度上期時点では、まだコロナウイルス感染拡大の影響による営業時間短縮等の効果もあり、今後の景気回復に伴う温室効果ガス排出量の増加も見込まれるため、令和6年度に向けて温室効果ガス排出量削減に向けた取り組みを継続する。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源行動の実施・電気	店舗の改装に伴うもののほか、共用設備照明器具のLED化など、省エネ化・高効率化を進める。		代替蛍光灯の入手が困難であったことから、球切れ時に灯具ごとLED化する交換を進めたほか、店舗改装時の照明LED化を勧奨し、省エネに努めた。
省エネルギー・省資源行動の実施・空調	空調機の老朽取替時等に、省エネ機器を導入を進める。		改装に伴い、空調機に省エネ機器を極力採用させた。
新築建物の木造化の検討	当社の開発用地のほとんどが鉄道高架下であり、新規開発に伴う建物新築時に既存高架への荷重影響を避けるための構造軽量化検討にあわせて、木造による新築を検討に含め、大気中CO ₂ の定着化に寄与できるようにする。		本計画対象外エリアではあるが、ささしまライブ地区に木造による事務所を建設し、大気中CO ₂ の定着化に寄与できた。

指針第 2 号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> ・新規テナント入居に伴う建物新築において、愛知県産材も含んだ木材を多用した木造建物 (166.54㎡使用) とすることにより、大気中CO₂の削減に寄与した。 ・店舗リニューアル計画の打合せ会議で照明のLED化及び空調機器の省エネ認定品採用を推奨した
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

テナント店長会などのタイミングで、スイッチの切り忘れなど環境保全の取り組みについて啓蒙した。
--